小型特殊自動車
Ｊ６５・６５Ｄ

取扱説明書

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3717 6001 003

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業本部	TEL	0943(75)2195	FAX	(75)4396
■海外センター	TEL	03(3552)6277	FAX	(3552)6288
■東京センター	TEL	03(3552)6255	FAX	(3552)6288
■仙台センター	TEL	022(281)1255	FAX	(281)3141
■埼玉センター	TEL	0495(77)4511	FAX	(77)1561
■大阪センター	TEL	0790(42)6031	FAX	(42)6035
■広島センター	TEL	0824(34)5996	FAX	(34)5997
■福岡センター	TEL	0943(76)2583	FAX	(75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本書は本製品の運転または保守・点検を行う場合にいつでも参照できるように大切に保管してください。

・本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

アドバイス

・本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。
交付申請の方法は「８．小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください。
なお、公道運転時には、普通自動車免許が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

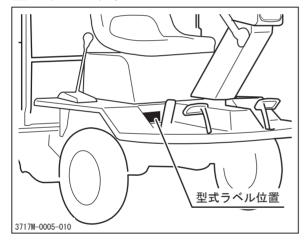
保証とアフターサービスについて

保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に貼付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞9ページ）

型式ラベル位置

型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　次

５．保守・お手入れ 26

８．小型特殊自動車登録申請の手引き 55

保証書

本書の巻末に添付
※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書
※本書とあわせて必ずお読みください。

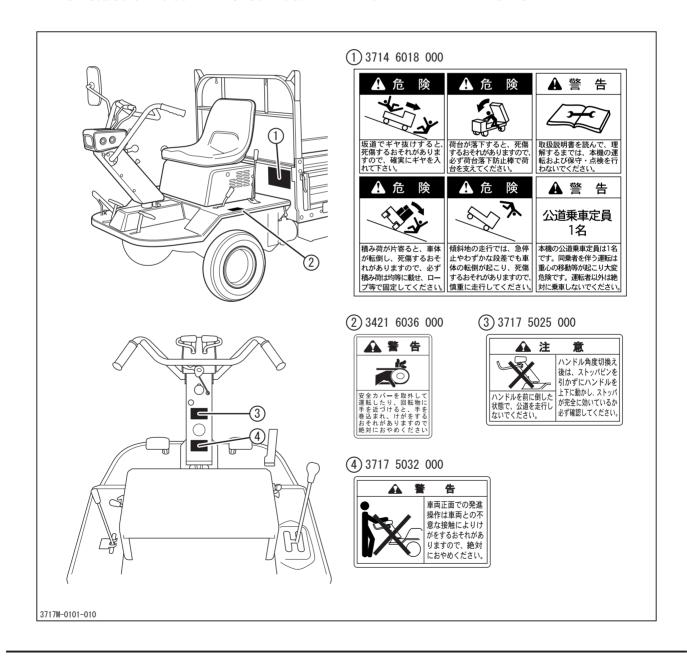
本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

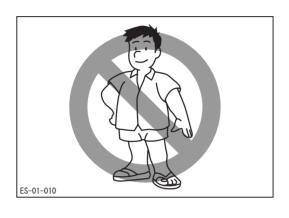
・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

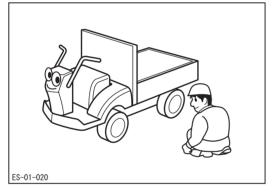
・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

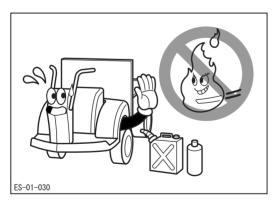
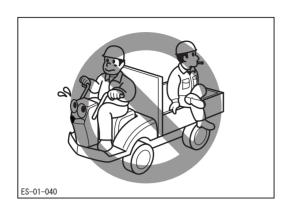
1　安全に関する注意事項

安全運転・作業のための心得

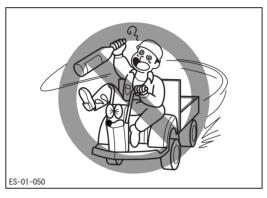
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得

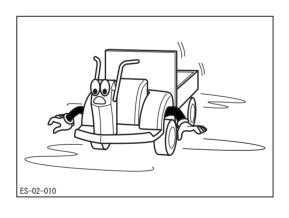
ES-01-010

正しい服装と保護具の着用
運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。

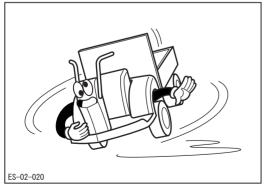
ES-01-020

始業点検の励行
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

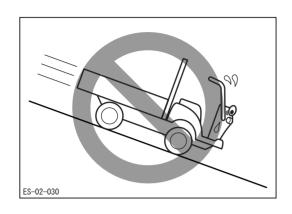
ES-01-030

火気厳禁
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

同乗禁止

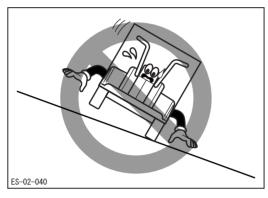
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。

無謀運転禁止

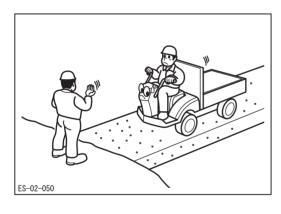
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得

安全速度遵守

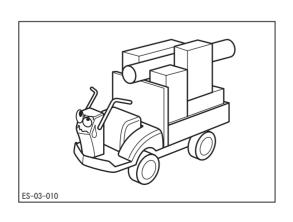
発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。

急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。

下り坂では低速で走行する

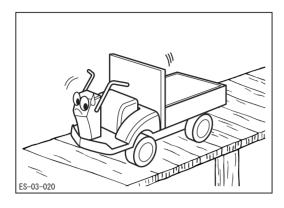
下り坂の前で一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、下るときにはエンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。

斜面の横断禁止

斜面はまっすぐ上り下りし、斜面を横断しないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。また、斜面での旋回は乗車姿勢が不安定になり危険ですので、行わないでください。

危険な場所では誘導者の指示に従う

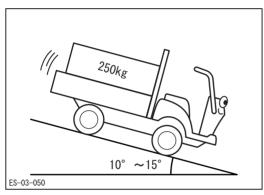
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得

過積載禁止

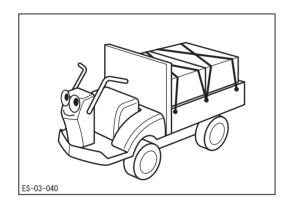
本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。

ES-03-020

制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

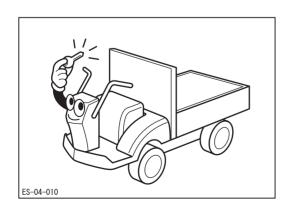
ES-03-050

傾斜地での積載量に注意

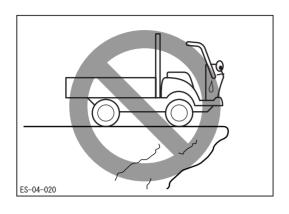
10°～15°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

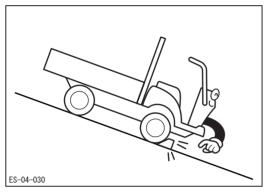
ES-03-040

積荷は正しく載せる

積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

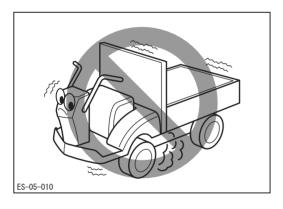
駐車時の心得

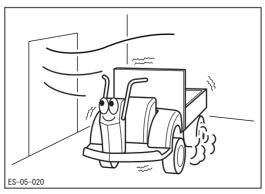
ES-04-010

駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。また、キーを忘れずに抜いてください。

危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

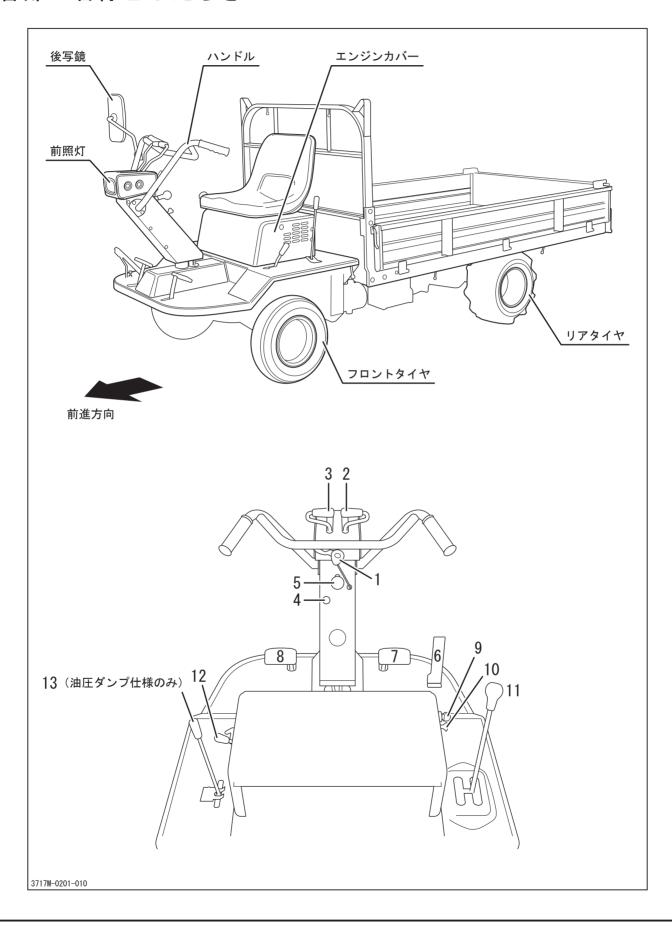
整備時の心得

エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

換気に注意

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

各部の名称とはたらき

後写鏡
ハンドル
エンジンカバー
前照灯
リアタイヤ
フロントタイヤ
前進方向
3
2
1
5
4
8
7
6
9
10
11
12
13（油圧ダンプ仕様のみ）
3717M-0201-010

2　各部の名称とはたらき

1 **アクセルレバー** ･････････････エンジン回転数の増減を行います。

2 **走行クラッチレバー** ･････････エンジンからの動力を断続させるときに使用します。「入」の位置に入れるとクラッチがつながり、「切」の位置に入れると切れます。

3 **駐車ブレーキレバー** ･････････車両を駐車させるときに使用します。「入」の位置に入れると駐車ブレーキがかかり、「切」の位置に入れると解除されます。

4 **ライトスイッチ** ･････････････前照灯を点灯または消灯させるときに使用します。

5 **ハンドル角度切替ノブ** ･･････ハンドル角度を切り替えるときに使用します。手前に引くとロックが解除されます。

6 **アクセルペダル** ･････････････エンジン回転数の増減を行います。

7 **ブレーキペダル** ･････････････車両を減速または停止させるときに使用します。

8 **クラッチペダル** ･････････････走行クラッチレバーが「入」の位置で、ペダルを踏むとクラッチが切れ、離すとつながります。

9 **メインスイッチ** ･････････････エンジンを始動または停止させるときに使用します。

10 **チョークレバー** ･････････････エンジンを始動させるときに使用します。レバーを引くとチョークバルブが閉じ、レバーを戻すとチョークバルブが開きます。

11 **変速レバー** ･･････････････････車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

12 **デフロックレバー** ･･･････････後輪がスリップするときに使用します。デフロックレバーを「入」の位置に入れるとデフロックの状態になります。

13 **ダンプレバー** ･･･････････････荷台の上昇または下降を行うときに使用します。

本製品の仕様

⚠ 注　意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				J65	J65D
機械質量			kg	330	360
最大作業能力			kN(kg)	4.9(500)	
機械寸法	全長		mm	3040	2950
	全幅		mm	1190	1150
	全高		mm	1285	1230
	ホイールベース		mm	1525	
	トレッド	前	mm	885	
		後	mm	785	
	最低地上高		mm	120	
	床面高さ		mm	505	
荷箱	形式			箱型三方開	
	荷箱内側寸法	長さ	mm	1845	1755
		幅	mm	1080	1040
		高さ	mm	230	
エンジン	名称			クボタ GR170	
	形式			空冷4サイクルガソリン	
	シリンダ（内径×行程）		mm	67×48	
	総排気量		cm^3(cc)	169(169)	
	最大出力		kw(PS)/rpm	4.5(6.1)/2000	
	連続定格出力		kw(PS)/rpm	3.2(4.3)/1800	
	最大トルク		N･m(kgm)/rpm	23.2(2.37)/1300	
	始動方式			セルフスタータ式	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率		g/kW･h(g/PS･h)	313(230)	
	燃料タンク容量		ℓ	3.6	
	潤滑油容量		ℓ	0.6	
	点火方式			電子点火	
	点火プラグ品番			NGK BPR2HS	
電装	バッテリ形式			28A19R	
	バッテリ容量		V/AH	12/21	
	ヘッドライト容量		V/W	12/23	

3 製品仕様

名称・型式				J65	J65D
走行性能	走行速度	前進1速	km/h	3.7	
		前進2速	km/h	7.2	
		前進3速	km/h	13.2	
		後進	km/h	3.7	
	最小回転半径		m	3.0	
	登坂能力		度	20(空車)	
	最大安定傾斜角度	左	度	30(空車)	
		右	度	30(空車)	
動力伝達装置	クラッチ形式			ベルトテンション式	
	主変速形式			ギヤスライド	
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ	
	タイヤ	前輪		HC 4.00-8 6PR	
		後輪		AG 17×8.00-8 4PR	
	トランスミッション油量		ℓ	2.4	
油圧装置	ダンプ方式			-	一方ダンプ
	油圧ポンプ形式			-	ギヤポンプ
	定格回転速度		min^{-1}(rpm)	-	1800(1800)
	定格吐出量		ℓ/min	-	8.0
	リリーフ設定圧		MPa(kg/cm^2)	-	9.3(95)
	シリンダ(内径×行程)		mm	-	65×200
	油圧作動油量		ℓ	-	1.6
	最大上昇角度		度	-	56
	上昇時間		秒	-	約6
	下降時間		秒	-	約4

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	エンジン整備用

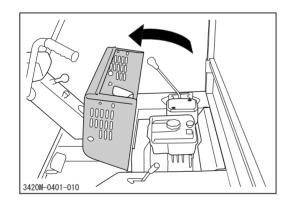
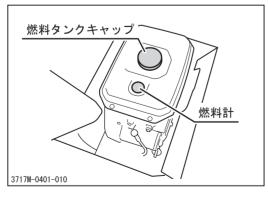
運転前の準備

始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞26ページ）を参照してください。

燃料の点検と補給

⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

1. エンジンカバーを開けます。

2. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
4. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
5. エンジンカバーを閉めます。

アドバイス
- 使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
- 燃料タンク容量：3.6ℓ

ハンドル角度の切り替え

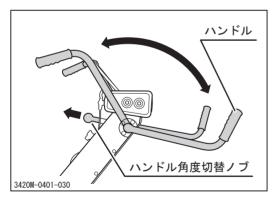
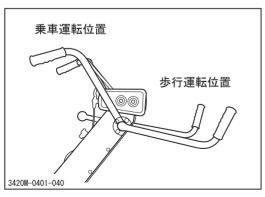
⚠ 警　告

- 歩行運転時は必ずハンドルを歩行運転位置にしてください。乗車運転位置で運転すると、安全な運転操作を妨げるおそれがあります。

- 乗車運転時は必ずハンドルを乗車運転位置にしてください。歩行運転位置で運転すると、安全な運転操作を妨げるおそれがあります。

⚠ 注　意

- ストッパの解除時およびハンドル角度の切替時に手や指をはさまないように十分注意してください。

- ハンドル角度の切替後は、ハンドルを上下に動かし、確実にロックされていることを確認してください。

1. ハンドル角度切替ノブを引きながら、ハンドルを動かし、ハンドル角度を切り替えます。

2. ハンドル角度は歩行運転位置、乗車運転位置に切り替えることができます。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警　告

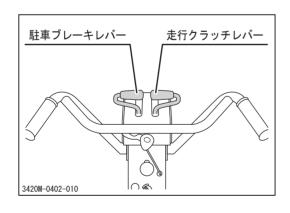
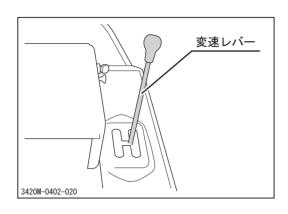
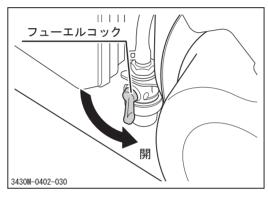
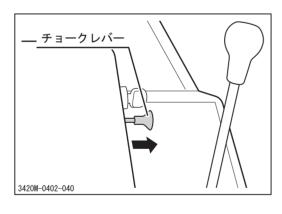
・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

・セルフスタータによる始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

⚠ 注　意

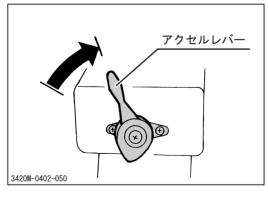
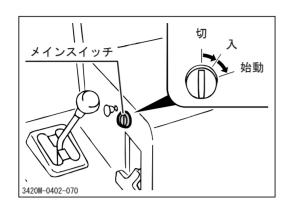
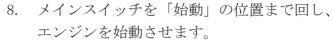
・エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・15秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「切」の位置に戻し、30秒以上休んでから再始動してください。

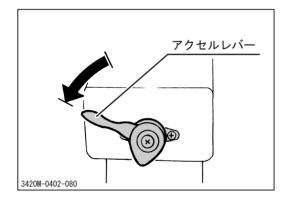
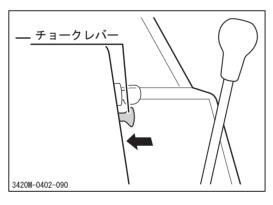
・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。

1. 走行クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。
2. 駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。

3. 変速レバーが「ニュートラル」の位置にあることを確認します。

4. エンジンカバーを開け、フューエルコックを「開」の位置にします。
5. エンジンカバーを閉めます。

6. チョークレバーを引きます。

アドバイス

・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。

7. アクセルレバーを「高速」側に少し動かします。

8. メインスイッチを「始動」の位置まで回し、エンジンを始動させます。
始動後はすぐにキーから手を離してください。
キーは自動的に「入」の位置に戻ります。

アドバイス

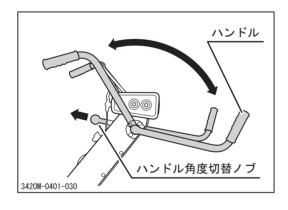
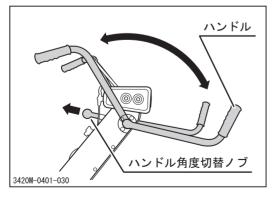
- 頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリを充電するようにしてください。
- バッテリ上がりなどにより始動できない場合は、メインスイッチを「入」の位置にし、リコイルスタータでエンジンを始動してください。

9. エンジン始動後、アクセルレバーを「低速」側に動かします。

10. チョークレバーを戻します。
11. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

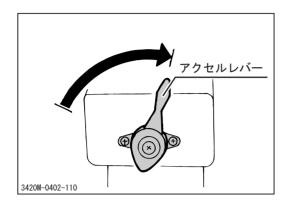
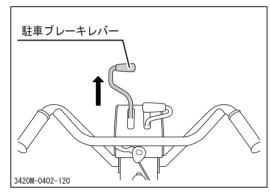
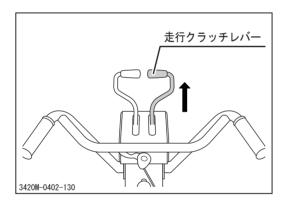
- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警 告

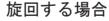
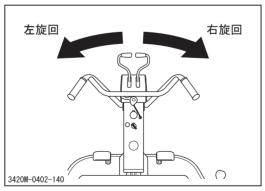
- 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- 発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。
- 旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。
- 急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- 走行中に駐車ブレーキレバーを「入」の位置に入れたり、メインスイッチを「切」の位置にしたりしないでください。運転者が振り落とされたり、車両が転倒したりするおそれがあります。

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 走行クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。
3. 駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。

4. 変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

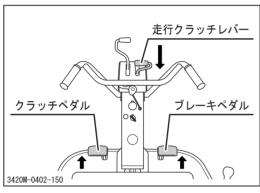
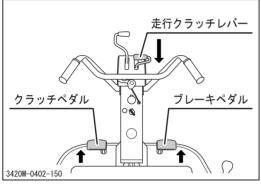
アドバイス

- 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞9ページ）を参照してください。
- 歩行運転時（ハンドルを前に倒した状態）は、安全のため3速に入らないようになっています。

5.　アクセルレバーを「高速」側に動かし、エンジンの回転数を上げます。

6.　駐車ブレーキレバーを「切」の位置に入れます。

7.　走行クラッチレバーを「入」の位置に徐々に入れ、車両を発進させます。

アドバイス

- 走行クラッチレバーを急に「入」の位置にするとエンジンが停止する場合があります。
- 傾斜地では駐車ブレーキレバーと走行クラッチレバーを同時に操作してください。

旋回する場合

8.　ハンドルを旋回したい方向に向け、旋回します。

停止のしかた

> **⚠ 警　告**
>
> ・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。
>
> ・停止の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停車しないでください。

乗車運転時

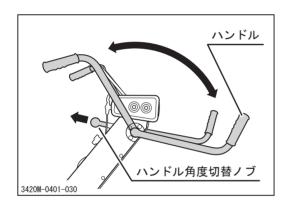
1. クラッチペダルを踏み込みます。または、走行クラッチレバーを「切」の位置に入れます。
2. ブレーキペダルを踏み込み、車両を停止させます。
3. 再発進するときはブレーキペダルを戻し、クラッチペダルを徐々に戻します。または、走行クラッチレバーを「切」の位置に徐々に入れます。

歩行運転時

1. 走行クラッチレバーを「切」の位置に入れます。
2. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置に入れ、車両を停止させます。

変速のしかた

⚠ 警告

- 変速操作は車両を停止させてから行ってください。
- 変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり危険です。
- 歩行運転時は1速を使用してください。車両にひかれるおそれがあります。

1. 車両を確実に停止させます。
2. 変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

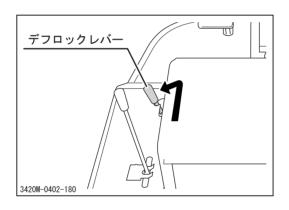
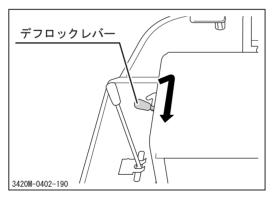
アドバイス

- 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞9ページ）を参照してください。
- 歩行運転時（ハンドルを前に倒した状態）は、安全のため3速に入らないようになっています。

後輪スリップ時の回避のしかた

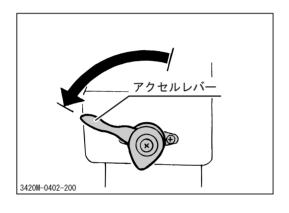
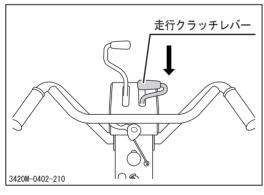
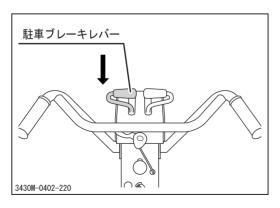
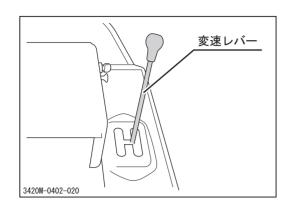
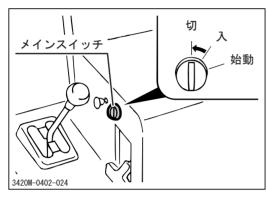
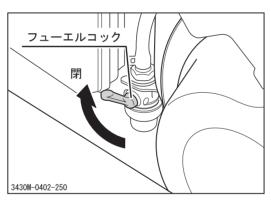
ぬかるみ等で後輪の片側がスリップする場合には、デフロックをすることでスリップを回避することができます。

⚠ 注　意

- デフロックの操作は車両を停止させてから行ってください。デファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。
- 通常走行時は必ずデフロックを「切」の状態にしてください。デファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。

1. デフロックレバーを「入」の位置に確実に入れます。
2. 変速レバーを1速または後進に確実に入れます。
3. 車両をゆっくりと発進させ、ぬかるみ等を脱出します。

4. ぬかるみ等を脱出したら、デフロックレバーを「切」の位置に戻します。

駐車のしかた

⚠ 警　告

- 駐車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。
- 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

1. 車両を確実に停止させます。
2. アクセルレバーを「低速」側に動かし、エンジンの回転数を下げます。

3. 走行クラッチレバーを「切」の位置に入れます。

4. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置に入れます。

5. 変速レバーを「ニュートラル」の位置にします。

6. メインスイッチを「切」の位置に回し、エンジンを停止させ、キーを抜き取ります。

7. エンジンカバーを開け、フューエルコックを「閉」の位置にします。
8. エンジンカバーを閉めます。

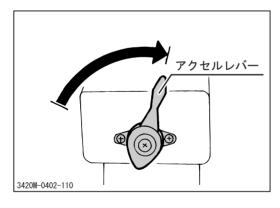
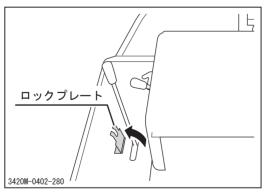
作業のしかた

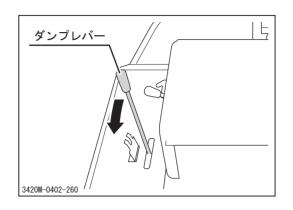
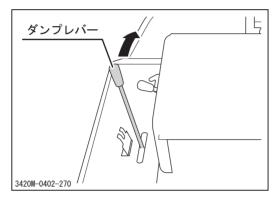
ダンプ操作（油圧ダンプ仕様のみ）

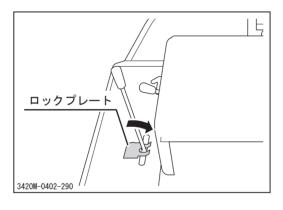
⚠ 警　告

- ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。
- 傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。

⚠ 注　意

- ダンプ操作は必ずエンジン回転時に行ってください。
- 積載したまま荷台を下降させる場合は、エンジン回転数を下げ、ゆっくりと下降させてください。

1. アクセルレバーを「高速」側に動かし、エンジンの回転数を上げます。

荷台を上昇させる場合

2. ロックプレートを解除します。

3. ダンプレバーを「上昇」の方向に徐々に倒し、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを戻します。

荷台を下降させる場合

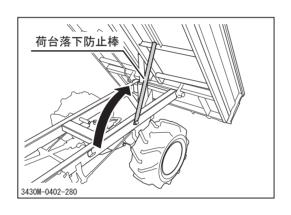
5. ダンプレバーを「下降」の方向に徐々に倒し、荷台を下降させます。
6. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを戻します。

7. ロックプレートでレバーを固定します。

荷台落下防止棒の操作（油圧ダンプ仕様のみ）

⚠ 警　告

・点検等で荷台を上昇させた場合には、必ず荷台落下防止棒で荷台を確実に支えてください。

⚠ 注　意

・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。

1. 荷台を上昇させます。
2. 荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">項　目</th><th rowspan="2">点　検　内　容</th><th colspan="3">点検時期</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>始業</th><th>月次</th><th>年次</th></tr>
<tr><td rowspan="9">原動機</td><td rowspan="9">本体</td><td>始動性</td><td>エンジンの始動が容易で異音がないこと</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">回転の状態</td><td>アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと</td><td></td><td></td><td>○</td><td>販売店に点検を依頼してください</td></tr>
<tr><td>エンジンを加速した時にアクセルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">排気の状態</td><td>エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">エアクリーナ</td><td>ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>清掃/交換：☞36ページ</td></tr>
<tr><td>締め付け</td><td>シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと
※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>弁隙間</td><td>弁隙間が正規であること
※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい</td><td></td><td></td><td>○</td><td>販売店に点検を依頼してください</td></tr>
</table>

項目			点検内容	点検時期			備考
				始業	月次	年次	
原動機	本体	圧縮圧力	圧縮圧力が正規であること ※アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと		○	○	
			取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
			防振ゴムに損傷または劣化がないこと		○	○	
	潤滑装置		油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞34ページ
			ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと		○	○	
	燃料装置		燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと		○	○	
			燃料ホースに損傷または劣化がないこと		○	○	
			フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞37ページ
			燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	
	電気装置	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○	清掃/交換：☞36ページ
		充電装置	正常に作動すること			○	販売店に点検を依頼してください
		バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞46ページ
			端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
		配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
			配線に損傷がないこと		○	○	
動力伝達装置	走行クラッチ		アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
			クラッチを徐々に接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
			クラッチペダルの遊びが適正であること		○	○	点検/調整：☞40ページ
	ロッド リンク ワイヤ類		ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
			連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
	Vベルト		ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞38ページ
			Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	点検時期 月次	点検時期 年次	備考
動力伝達装置	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	交換：☞41ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	プロペラシャフト	クラッチをつないだ時に異音または異常振動がないこと		○	○	
		亀裂、損傷または変形がないこと		○	○	
走行装置	タイヤホイール	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと		○	○	
		タイヤの空気圧および溝の深さが規定値内であること	○	○	○	点検：☞38ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏摩耗がないこと		○	○	
		タイヤの溝に金属片、石等の異物のかみ込みがないこと	○	○	○	
		ホイールボルトおよびハブナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞42ページ
		ブレーキペダルの遊びが適正であること		○	○	点検/調整：☞43ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
油圧装置	油圧パッケージ	油圧パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	交換：☞44ページ
		油圧パッケージ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
		パイプおよびホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
油圧装置	油圧パッケージ	負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること ※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい			○	
	配管（ホース類、高圧パイプ）	配管に亀裂、損傷、劣化またはねじれがないこと		○	○	
		配管継手部からの油漏れがないこと		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	油圧シリンダ	円滑に作動すること		○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと		○	○	
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台	ドアの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
	前照灯	正常に点灯すること	○	○	○	交換：☞48ページ
		レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	

5　保守・お手入れ

給油・給水一覧表

項　目	補給（交換）時期	推奨品	容量
燃料	随時	自動車用無鉛ガソリン	3.6ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間 2回目以降：50時間毎	エンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	0.6ℓ
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	2.4ℓ
油圧パッケージオイル	100時間毎に点検し不足時に補給	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#90 (寒冷地ではエンジンオイル 10W-30)	1.6ℓ
バッテリ液	毎月点検し不足時に補給	蒸留水	-

給脂一覧表

給脂箇所	補給時期	推奨品	容量
前車軸中央	半年毎 購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-
前車軸両端	半年毎 購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-
タイロッドエンド	半年毎 購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
ワイヤ（アクセルレバー）	36090101000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（アクセルペダル）	36430306000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（チョーク）	32050109000	不具合があれば交換	1
走行装置			
タイヤ（前輪）	34072302000	不具合があれば交換	2
タイヤ（後輪）	34076003000	不具合があれば交換	2
チューブ（前輪）	34072303000	不具合があれば交換	2
チューブ（後輪）	34076004000	不具合があれば交換	2
Vベルト（SB35）	08521300035	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット	72019901000	不具合があれば交換	2
ワイヤ（走行クラッチレバー）	34073015000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（駐車ブレーキレバー）	34073221000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（クラッチペダル）	34303026000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（ブレーキペダル）	34093005000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（シフトレバー3速牽制）	36690118000	不具合があれば交換	1
油圧系統			
Vベルト（SB35）	08521300035	不具合があれば交換	1
電装品			
バッテリ（28A19R）	37053901000	不具合があれば交換	1
ライトバルブ（12V23W）	09808122304	不具合があれば交換	1

アドバイス

・ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品ですので、2年毎に新品と交換してください。

カバーの開けかたおよび取り外しかた

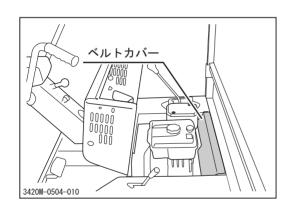
⚠ 警　告

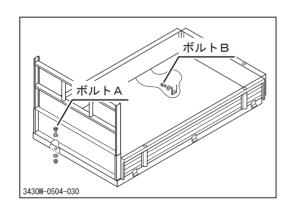
・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

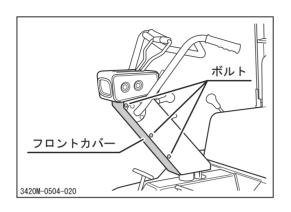
⚠ 注　意

・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

ベルトカバーの取り外しかた

1. エンジンカバーを開きます。
2. ボルト（2本）を取り外し、ベルトカバーを取り外します。

荷台の上昇させかた（平ボディ仕様）

1. ボルトＡ（2本）を取り外します。
2. ボルトＢ（2本）を緩めます。
3. 荷台を上昇させ、確実に固定します。

フロントカバーの取り外しかた

1. ボルト（6本）を取り外し、フロントカバーを取り外します。

エンジン

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

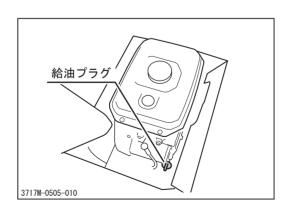
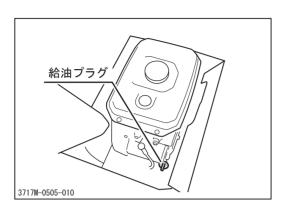
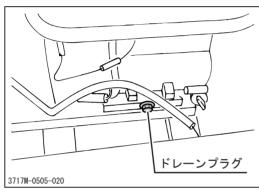
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・点検および作業時は付属の「エンジン取扱説明書」も参照してください。
・指定オイル、規定オイル量：☞30ページ

点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開きます。
3. 給油プラグを取り外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、オイルの点検を行います。
5. 給油プラグを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉じます。

補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. エンジンカバーを開きます。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってオイルの補給を行います。
4. オイル量を点検します。
5. エンジンカバーを閉じます。

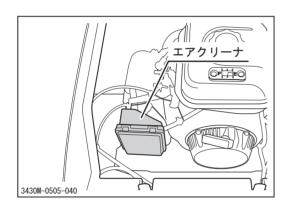
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. エンジンカバーを開きます。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。
5. エンジンカバーを閉じます。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

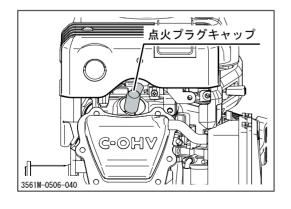
・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。

1. エンジンカバーを開きます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナの清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉じます。

点火プラグの点検・清掃・交換

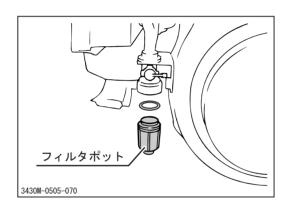
⚠ 注　意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。

1. エンジンカバーを開きます。
2. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
4. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り付けます。
5. エンジンカバーを閉じます。

フューエルフィルタの清掃

⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

1. エンジンカバーを開きます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、フューエルフィルタの清掃を行います。
3. エンジン始動後、取付部から燃料の漏れがないことを確認します。
4. エンジンカバーを閉じます。

走行装置

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注　意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常摩耗や損傷のおそれがあります。

1.　タイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

アドバイス

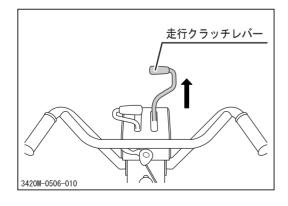
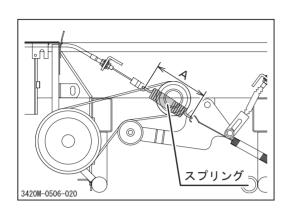
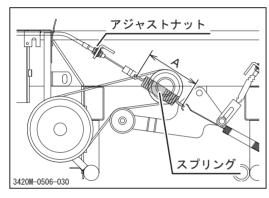
・空気圧：前輪3.5kg/cm²、後輪2.5kg/cm²

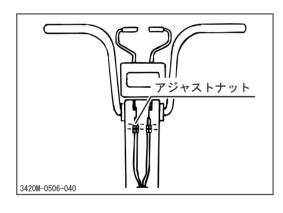
Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

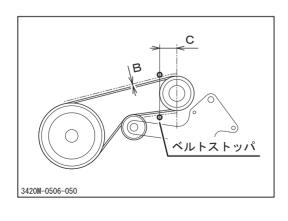
・ベルトの張り調整後は、必ずクラッチペダルの遊びの調整も行ってください。（☞40ページ）

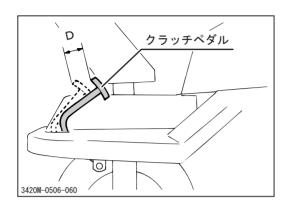
点検

1.　エンジンカバーを開きます。
2.　ベルトカバーを取り外します。（☞32ページ）
3.　走行クラッチレバーを「入」の位置に入れます。

4. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングの長さＡが約120mm（スプリングの伸びが約8mm）であるか点検します。適正でない場合には調整します。
5. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。

調整（テンションプーリ側）

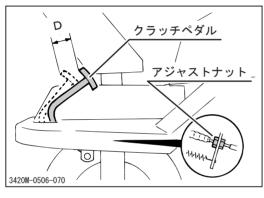
1. 荷台を上昇させ確実に固定します。
2. スプリングの長さＡが約120mmになるようにアジャストナットで調整します。

調整（レバー側）

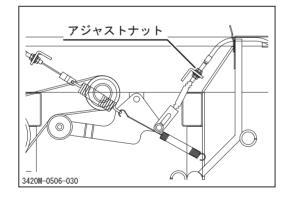
1. フロントカバーを取り外します。（☞33ページ）
2. スプリングの長さＡが約120mmになるようにアジャストナットで調整します。

ベルトストッパの調整

調整

1. エンジンカバーを開きます。
2. ベルトカバーを取り外します。（☞32ページ）
3. 走行クラッチレバーを「入」の位置に入れます。
4. ＶベルトとベルトストッパのＢが約5mm、距離Ｃが35～40mmになるように位置を調整します。

クラッチペダルの点検・調整

点検

1. 走行クラッチレバーを「入」の位置に入れます。
2. クラッチペダルの遊びＤが約15～25㎜の範囲にあるかを点検します。適正でない場合には遊びを調整します。

調整（ペダル側）

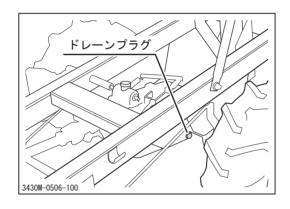
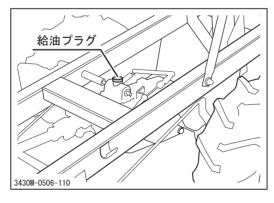
1. クラッチペダルの遊びＤが約15～25㎜になるようにアジャストナットで調整します。

調整（テンションプーリ側）

1. クラッチペダルの遊びＤが約15～25㎜になるようにアジャストナットで調整します。

トランスミッションオイルの交換

> **⚠ 警　告**
>
> ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞30ページ

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、確実に固定します。
3. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。

6. 給油プラグを取り外します。
7. 給油口より指定のオイルを補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. 荷台を下降させます。

ブレーキの調整

⚠ 警 告

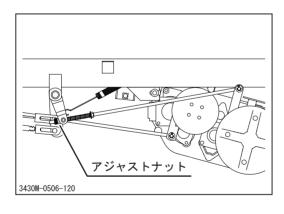
・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。

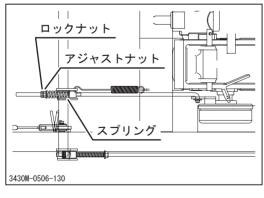
・ブレーキが片効きする場合はすぐに調整を行ってください。

・ホイールブレーキの調整は必ず左右同時に行ってください。

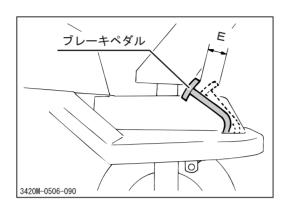
⚠ 注 意

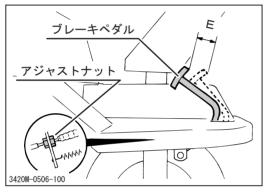
・ホイールブレーキの調整は、ブレーキを引きずらない範囲でおこなってください。

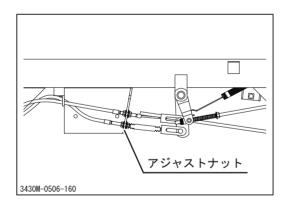
・センターブレーキの調整は、ホイールブレーキを調整した後に行ってください。

ホイールブレーキの調整

1. アジャストナットを締付方向に回して調整します。

センターブレーキの調整

1. 荷台を上昇させ、確実に固定します。
2. 駐車ブレーキレバーが「入」の位置に入っていることを確認します。
3. ロックナットを緩めます。
4. スプリングが約3～5mm縮むようにアジャストナットで調整します。
5. ロックナットを締め付けます。
6. 荷台を下降させます。

ブレーキペダルの点検・調整

点検

1. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置に入れます。
2. ブレーキペダルの遊びＥが約5～10㎜の範囲にあるかを点検します。適正でない場合には遊びを調整します。

調整（ペダル側）

1. ブレーキペダルの遊びＥが約5～10㎜になるようにアジャストナットで調整します。

調整（ブレーキ側）

1. ブレーキペダルの遊びＥが約5～10㎜になるようにアジャストナットで調整します。

油圧系統（油圧ダンプ仕様のみ）

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

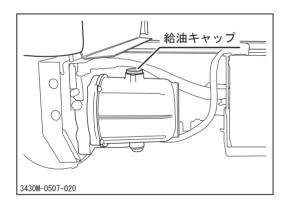
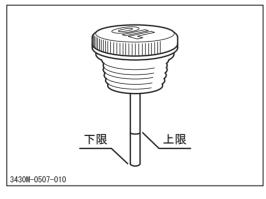
・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

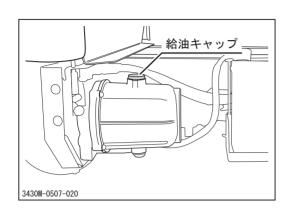
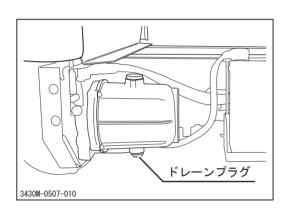
パワーパッケージオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 給油キャップを取り外します。

3. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合は補給します。
4. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

アドバイス

・オイル量の点検は荷台を下げてから行ってください。荷台を上げた状態では正確なオイル量が点検できません。

補給

1. 給油キャップを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
4. 給油キャップを取り付けます。

アドバイス

・指定オイル：☞30ページ

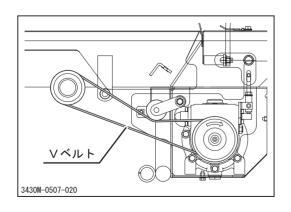
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

アドバイス

・指定オイル：☞30ページ
・オイル量：☞30ページ

Ｖベルトの点検

⚠ 注　意
・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

1. エンジンカバーを開きます。
2. ベルトカバーを取り外します。（☞32ページ）
3. Ｖベルトにすべりがないか点検します。ベルトがすべる場合には張りを調整します。調整は販売店に依頼してください。
4. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ作業を依頼してください。

電装品

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警　告

・バッテリ液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面が傷ついたり、部品が腐食したりするおそれがあります。

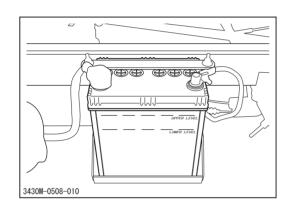
・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

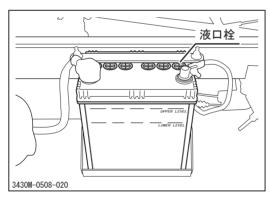
⚠ 注　意

・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

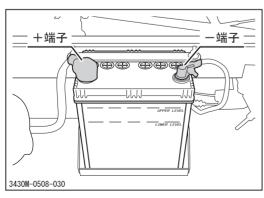
・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

3430M-0508-010

点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリ液量が「UPPER LEVEL」（以下U.L）と「LOWER LEVEL」（以下L.L）の間にあることを確認します。
3. バッテリ液量が「U.L」と「L.L」の中間より少ない場合は補給します。

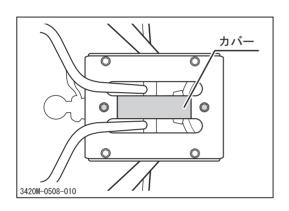
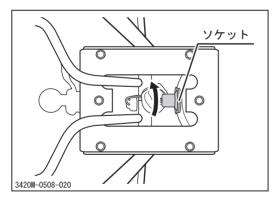
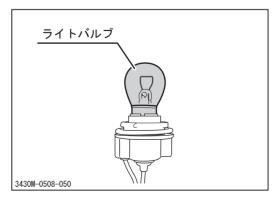
3430M-0508-020

補給

1. 液口栓を取り外します。
2. 蒸留水を「U.L」まで補給してください。
3. 液口栓を取り付けます。

3430M-0508-030

充電

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリの（－）端子を取り外します。
3. バッテリの（＋）端子を取り外します。
4. バッテリを取り外します。
5. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
6. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。

ライトバルブの交換

⚠ 注　意
・ライトバルブが切れた場合はすぐに新品と交換してください
・ライトバルブは指定のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。
・ライトバルブを素手で触らないでください。バルブの寿命が縮まるおそれがあります。

1. ボルト（2本）を取り外し、カバーを取り外します。

2. ラバーブーツをめくり、ソケットをライトユニットから取り外します。

3. ライトバルブを新品と交換します。
4. ソケットをライトユニットに取り付けます。

アドバイス

・指定バルブ：☞31ページ

使用後のお手入れ

⚠ 注　意

- エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 「停止のしかた」（☞18ページ）の手順に従い、車両を停車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。（☞30ページ）
4. エンジンオイルを交換します。（☞34ページ）
5. エアクリーナエレメントを清掃します。（☞36ページ）
6. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
7. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給を行います。（☞46ページ）
8. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

<table>
<tr><th>発生箇所</th><th>不具合現象</th><th>考えられる原因</th><th>処置</th><th>参照</th></tr>
<tr><td rowspan="15">エンジン関連</td><td rowspan="7">エンジンがかからないまたはかかりにくい</td><td>燃料切れ</td><td>→補給する</td><td>11ページ</td></tr>
<tr><td>燃料の吸い込みすぎ</td><td>→時間をおいて始動する</td><td></td></tr>
<tr><td>バッテリの容量不足</td><td>→バッテリ液を補給する
→バッテリを充電する
→バッテリを交換する</td><td>47ページ
47ページ</td></tr>
<tr><td>バッテリ端子の外れまたは断線</td><td>→接続または修理する</td><td></td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの不足または品質不良</td><td>→補給または交換する</td><td>34ページ</td></tr>
<tr><td>点火プラグの汚れ等による着火不良</td><td>→清掃または交換する</td><td>36ページ</td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください</td><td>13ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">すぐにエンストする</td><td>燃料切れ</td><td>→補給する</td><td>11ページ</td></tr>
<tr><td>フューエルコックが開いていない</td><td>→フューエルコックを開く</td><td>14ページ</td></tr>
<tr><td>チョークレバーの戻し忘れ</td><td>→チョークレバーを戻す</td><td>15ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンが突然停止した</td><td>燃料切れ</td><td>→補給する</td><td>11ページ</td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）</td><td>エアクリーナの目詰まり</td><td>→清掃または交換する</td><td>36ページ</td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
</table>

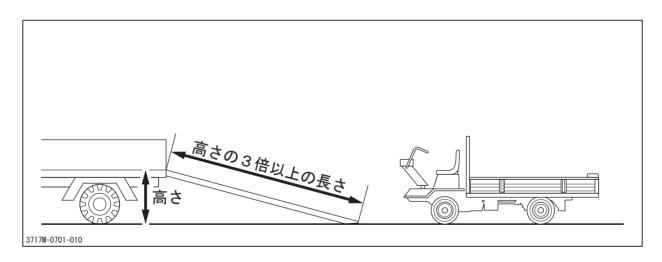
6　不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		Ｖベルトの緩み	→調整する	38ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	34ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	15ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	34ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	34ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	19ページ
		ブレーキが効いている	→ブレーキを解除する	17ページ
		Ｖベルトの緩み	→調整する	
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	16ページ
	クラッチの切れが悪い	Ｖベルトの調整不良	→調整する	38ページ
	Ｖベルトが滑る	Ｖベルトの緩み	→調整する	38ページ

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	19ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	クラッチペダルの遊びが過大	調整不良	→調整する	40ページ
	旋回が円滑に行えない	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	38ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	調整不良	→調整する	43ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ブレーキペダルの遊びが過大	調整不良	→調整する	44ページ
油圧装置関連	油圧装置が作動しないまたは作動不良	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	45ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	後ドアの開閉不良	ドアロックの調整不良	→調整する	
電装品	前照灯の点灯不良	バルブ切れ	→交換する	49ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

- トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- 作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの3倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- 前進でゆっくりと積み込んでください。
- アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- 輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進にてゆっくりと積み込みます。
4. **「停止のしかた」**（☞19ページ）の手順に従い、車両を停車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

小型特殊自動車登録申請の手引き

本製品の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。
手続きの詳細については市町村役場でお尋ねください。

項目	内容
搭載エンジン	クボタGR170
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイJ65
型式	チクスイJ65
年式	年式は購入された年を記入してください
原動機番号	エンジンの打刻を見て記入してください
原動機総排気量	169cc
車台番号	車台番号は車両中央左側の本体フレームに打刻してあります
型式認定番号	特2112
形状	ホイールキャリア

原動機番号位置

車台番号位置